

白砂青松の海岸線。

一宮川を行くポンポン船。

悠々自適の避暑客たち。

なにより、自然があり、

文化があるところで、

人はもの想い、英気を養う。

かの若き芥川龍之介が

愛に惑い、悩んだ。

詩人・白鳥省吾は、

人生を詠った。

そして、古代から

日々の営みのなかにこそ

未来へと続く

真実があることを

まちの歴史は知っている。

来 往 文 化

こ こ に 生 ま れ し も の た ち 。